



第四号

葬

SOU

フリースタイルなお別れざっし

巻頭
黒白

お葬式エコロジー

祭壇エコロジー／火葬エコロジー／香典返し
エコロジー／墓エコロジー／喪服エコロジー
樹海に沈めばエコなのか？

ウシロメタサ



火葬エコロジ

火葬で考えるエコといったら、CO₂削減。これしかないですよー！人間が火葬されて吐き出すCO₂の量は、一年間に吐き出すCO₂量に匹敵するといわれてます。じゃあ人間が一年間で吐き出すCO₂の量はどのくらいかと調べると、160kgだとか300kgだとか様々にいう人がいて、これもどれがホントか私の頭脳では分かりません！

でもCO₂を減らしたいなら、きつと国産のものを使うのが一番です。輸送でどれだけ吐き出してるかってことです。それを念頭において選んでみました。

日本で二人人気の「エコ棺」はこちらでしょう！

「エコフィン ノア」(発売:ウィルライフ)

エコ+コフィン(棺)で「エコフィン」。なんと段ボールでできたお棺です。去年のフェーネラル・ビジネスフェアで触ってきたけど、丈夫ですよ、これ。結構実績あり

作るときのこと、ちゃんと考えてる

みかん箱大の紙ダンボール箱一個を作るときに発生するCO₂排出量は約0.5kgなんだそう。これを信用するとして、みかん箱の一边は45センチ、エコフィンノアは190センチ×55センチ×45センチ。面積でいくとみかん箱の約3倍です。エコフィンノアが使うダンボールは3層構造といわれているから、単純にみかん箱3つを3倍使うことにしてみると、CO₂排出量は4.5kg。

原料には再生紙を使っているかと思いきや、環境に負担の少ないバージンパルプ使用だし、当然エコ商品だからこれより少ないことが期待されるとして、160kgだとか300kgだとか比べると、全然大したお話しじゃないですねーががん作ってほしいと思います。

ちなみに最近の間伐材を利用した「エコフィンウイ」も登場しています。間伐材といえども、原料は樹棺の中では超高級素材として名高いです。これがなんと、200kgのカーボンオフセット*証明書付と、環境に対して本当に真剣。メーカー小売希望価格25万円。

*カーボンオフセット…発生してしまった二酸化炭素の量を何らかの方法で相殺し、二酸化炭素の排出を実質ゼロに近づけようという活動や考え方。

ますし、安心して使えそうです。

エコポイント、次々

1立米(1t)の木材からできる棺の数は、合板製なら36本。対してエコフィンノアなら54本！さらに、燃焼時の有害ガスの排出量が合板製棺の3分の1以下。これは合板製棺が化学系接着剤を使用しているのに対して、天然接着剤を使用しているから。そして燃焼時間は合板製に比べて、約2分の1の約10分。よって、CO₂



▲12万円程で売られているのを某葬儀社サイトで見た(ウィルライフHPより)

も2分の1という計算です。25kg程度かと思われ。さらになんと1棺につき10本の植林寄付金つき！まさに、非の打ち所のないエコ商品！でも、段ボールを作る過程で、結構ケミカルな工程も多いはず。そのときに排出されるCO₂ってどのくらいなの？ ネットで調べてみたよ！

優雅な贈儀のお棺

シムビオシス(発売:シムビオシス)

故人のお体が葬送の主役であることを再発見させてくれる、インパクトの強い藤で編んだ棺。前日の17:00までに発注すれば翌日に配送、北海道へは2日後、沖縄へは3日後に配達してくれるそう。急いでいるときに頼りになる素晴らしい棺屋さんです。

機械を使わない！

「環境を第一に考慮するならば、物を作らない事こそが重要です。環境によい物を機械で作る際に、環境を破壊する。と言う矛盾に目をそらさず製作用工程にこだわり、地球と人との共生を実現し



▲軽快なイメージに、葬儀の重苦しさも軽減されるか(シムビオシスHPより)

ます」という主張には共感が集まりそう。なるほど手仕事なら、作成するときのCO₂排出量などに気をもまなくていいわけです。さらに色の組み替えやサイズ変更なども可能。プチオーダーメイド気分を味わえます。

「腫れ物なら伐採しなくて済む」

とつてもシンプルな考え方ですーしかも「3〜5年で製品化が可能な状態にまで成長することから、森林破壊をすることもない」。サイクルに注目した、シンプルで効率の良いエコがそこにはあります。

仏式で使うには工夫が必要

最近流行り始めた、バラや洋ランなどを使った祭壇には非常に映えます。仏式葬儀でおなじみの白木祭壇に菊の花……だとしっくりこないのが、飾り付けを工夫しましょう。

有無を言わせぬ説得力

竹の棺桶（発売・竹の商社 エコペール）

最後に、竹のお棺を紹介します。エコな商品に竹が使

われるのは珍しいけど、どうして棺にまで？ 事情を知りたくて資料を取り寄せてみました。

エコなポイントとしてはまず、竹は成長が速いため、3年ほどで棺にすることができると。この特長は納得できます。繁殖が容易なのが、エコ商品として竹がウケる一番の理由だからね。そして竹は燃焼温度が木材より低いので、焼却炉の負担減少・燃料消費の減少につながるのだと。うーん、同じ温度で焼いてしまう以上、それは



▲シンプルさが風格を醸し出す外観（エコペールHPより）

あんまり関係ないように思えるけれど、そして抗菌作用があるーこれは盲点でしたーなるほど。活性ケイ酸の抗菌作用で、腐敗を食い止める効果は確かに見込めます。ただ、欠点はその重いこと。一般的な棺が15kg前後だとい

うのに、22kgはちょっと重すぎるのでは……。これに遺体に乗るのだから、平均体重の人でも合計で80kgはなってしまう。持つのが結構大変です。

「エコ棺でなくともできるプチエコ」

ここまで棺を紹介してきたけど、いざコレをしいーと思つたときは、火葬場にいち早く相談しましょう。合板製の棺に慣れてる窯と職員さんですから、急に違うものを持ってこれたら「えっ、最初はどのくらいの温度で行けばいいの？ 棺自体、どのくらいの時間で燃えるの？ てか、灰とか残留物が出るの？」と不安にさせてしまうかもしれません。安全性は実験済みとはいえ、事前相談はしたいところです。

それがめんどうくないなーって人は、棺がエコ対応じゃなくても、火葬の際にできるエコ、ちゃんとありますよーそれは、副葬品として燃えないものを入れますよー分かつてるつもりでも、「使ってたから」「好きだったから」と、ついつい色んなものを入れてしまいがちです。これらは全部、火葬を長引かせるという観点からエコとしては失格！

じゃあ入れられないの？ うーん、基本的にはだめだけど、手はありますよ。例えば、図のようにしてみても



火葬そのものを見直してみる

米国では遺体をアルカリ加水分解する研究が進んでいるので、火葬に比べ使う天然ガスの量を10分の1に減らし、電気の方も3分の1に抑えることができるというわけです。また、排出されるCO₂の量は90%削減でき、水銀蒸気が発生することはないとのこと（ロイター）。つまりエコ、というわけなんですけど、正直すこ怖い！ 普及したら生きてても簡単に消されそうです。倫理的な観点からも、実用に至るまでには長い道のりがありそうです……。